

診療科目 ● **精神医学・児童精神医学**

プログラム責任者：平安 良雄

附属病院		
精神科	主任教授	平安 良雄（精神科・児童精神科部長）
	講師	勝瀬 大海、岸田 郁子、浅見 剛
	助教	須田 顕、吉見 明香、千葉 悠平、玉澤 彰英、白石 洋子（脳波）、井出 恵子（健康管理）
児童精神科	助教	藤田 純一、青山 久美
附属市民総合医療センター		
精神科	准教授	高橋 雄一（精神医療センター部長）
	助教	六本木 知秀、青木 直哉、早坂 俊亮、加納 亮治、林 美穂、内村 放、日野 耕介（救命C）、中川 牧子（脳波室）
児童精神科	助教	中島智美、廣内千晶

**本プログラムの特徴**

精神科領域の基本的な専門医である日本精神神経学会専門医と、国家資格である精神保健指定医を最短で取得することを目指した、計3年間のプログラムです。大学病院・精神科病院・総合病院精神科にて一年ずつ研修を行うことによって、幅広い臨床経験を積むことができます。また、年に8回程度、シニアレジデントを対象とした研修会を開催するほか、全国レベルの学会や研修会への参加もできます。

3年間の本プログラム修了後はさらに、大学病院や協力病院でのローテートを通じて臨床経験を積み、精神科指導医やその他の学会認定医（日本老年精神医学会専門医、日本臨床精神神経薬理学会専門医など）の取得を目指していくことも可能です。

また、大学院博士課程への乗り入れコースも設定しています。例えば、本プログラムと同時に大学院に入学した場合、3年間の研修修了後、2年間は研究に専念することができ、計5年程で博士号の取得も可能です。

児童精神科での研修を希望の場合は、3年間のプログラムの中で、大学病院の児童精神科での研修を1年間行うこともできます。その後も児童精神医学を専門領域としていきたい方は、3年間の本プログラム修了に引き続き、協力病院での勤務や、療育センター・児童相談所の嘱託などを通じて児童精神科の臨床経験を積むことができ、日本児童青年精神医学会認定医の取得などを目指すことも可能です。



**目 標**

一般精神科診療のみならず、リエゾン、精神科救急、老年精神医学、児童・思春期精神医学などの幅広い臨床経験を積むことで、精神科専門医として基本的な技術・知識の習得にとどまることなく、幅広い見識を備えた精神科医の養成を目標とします。

その中で、特に人権上適切な配慮を要する精神科医療の特性をふまえて、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮しつつ、患者の人権を確保し、個人としての尊厳に配慮した医療を行うことができるよう研鑽を重ねることは、精神保健指定医を目指す上でも、重要な課題となります。

また、研究会・学会への参加や発表などの学術活動を通じて、専門的知識に基づいた臨床研究の基本的な手法を身につけることも、今日の臨床家には必要なスキルの一つとして、本プログラムの目標としています。

**目標とする学会認定専門資格・国家資格**

日本精神神経学会専門医	厚生労働省 精神保健指定医
日本児童青年精神医学会認定医	日本老年精神医学会専門医
日本臨床精神神経薬理学会専門医	日本認知症学会専門医

**主な協力病院**

国立病院機構・横浜医療センター、神奈川県立精神医療センター、誠心会神奈川病院、曾我病院、鷹岡病院、沼津中央病院、日向台病院、研水会平塚病院、藤沢病院、横浜舞岡病院、ワシン坂病院、神奈川県立こども医療センター、横浜市総合保健医療センター、藤沢市民病院、横須賀市立市民病院、済生会横浜市南部病院

**診療科のホームページ URL**

<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~psychiat/>

**担当者・連絡先**

浅見 剛  
kengakukibou@gmail.com

**診療科の実績**

附属病院の精神科は、開放病棟26床のみの設備ながら、年間入院患者数は約320名という、精神科としては高い病床回転率を維持しており、当院通院患者のみならず地域のクリニック、一般病院からの入院依頼にも広く対応しています。横浜市の委託を受けた認知症患者医療センターも設置されています。外来は、年間外来初診患者数約1,200名、再来患者1日平均約100名という規模です。さらに、うつ病患者の復職支援リハビリテーションプログラムや統合失調症患者のリハビリ支援プログラムを行うなど、入院治療から社会参加の支援まで視野に入れた幅広い診療を行っています。センター病院の精神医療センターは、閉鎖病棟で50床を有しており、年間入院患者数は約260名です。外来は、年間初診患者数は約1,200名です。同センターは精神科救急基幹病院としての役割を担っており、重度な症例にも迅速に対応するための病棟として稼働しています。さらに行政医療として、一般の精神科救急のみならず、身体合併症患者転院事業、医療観察法鑑定入院などにも対応しています。

当院の児童精神科は、全国に先駆けて約40年前に外来診療科として設立されたのが始まりで、今日では附属病院・センター病院両院で診療が行われています。附属病院の児童精神科は現在でも外来診療科として独立して診療を行っており、年間約310名の外来初診患者を受け入れています。センター病院においても、年間約250名の外来初診患者を受け入れています。さらに同院では精神医療センターの50床のうち8床程が児童精神科に割り当てられており、摂食障害、統合失調症、発達障害、情緒障害などの児童の入院治療も行っています。

また、本学は、高度救命救急センターにも精神科医が常勤として勤務している数少ない病院です。その中で精神科は、搬送されてくる自殺企図者に対し、早期から心理的危機介入、精神的治療やソーシャルワークの導入等を行い、再企図予防も視野に入れた活動を展開しています。

研究面でも、神経画像、神経病理、神経免疫、分子生物、臨床精神薬理、精神科救急、精神科リハビリテーションなどが包括的に行われ、学会や論文での発表を活発に行っており、国内外で高い評価を得ています。

**指導医から一言**

大学病院・総合病院・単科精神科病院の三つのタイプの病院が協力できる体制があるからこそ可能となった、幅も、奥行きも広いプログラムです。

大学病院での研修では、器質性精神障害や身体合併症症例を多く経験できるのは当然ながら、物忘れ外来や児童精神科外来といった専門外来、さらに脳波研修も経験することができます。協力病院のほうも、いずれも本教室の現役メンバーやOBの精神科医が複数名いる病院ばかりなので、指導の体制が整っています。専門医や指定医の申請にあたってのレポート作成の指導なども教室員が密に行い、面接試験対策も行っています。

手前味噌ですが、本教室の研修システムは、バランスの良い精神科専門医を養成することができ、全国に誇れるものです。本稿には書ききれませんが、いわゆるチャンスも山のようにあります。精神科医になって良かった、と心から思えるよう、一緒に頑張りましょう。説明会などのお知らせをホームページに随時アップしておりますので是非ご覧ください。

(平成13年卒 浅見 剛)

**シニアレジデントからのメッセージ**

1年目の現在は大学病院で研修中です。熱心で親切な先輩方に様々なことを教わり、レジデント仲間には良い刺激をもらい、恵まれた環境で日々とても楽しく仕事をしています。  
(シニアレジデント1年目、宮崎 秀仁)

1年目は附属病院で、2年目の現在はセンター病院で研修中です。大学院にも進学しており、臨床と研究の両立は忙しいですが、とても充実しています。また、学内外の著名な先生方からの指導も受けられ、楽しく生活しています。  
(シニアレジデント2年目 阿部 紀絵)